

学び方を身に付け、表現しかかわりながら確かな学力を付ける子どもの育成 ～3年国語「物語文」の学習を通して～

新潟 新潟市立葛塚小学校 相馬 久美子

1 はじめに

当校では校内研修や学校評価の協議を進めていく中で、学習の基本は読解力であり、国語の読解力を高めることが、他教科の理解を深めることにつながるという結果に至った。また、新潟市教育委員会の学校教育実践上の努力点でも、学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力の向上を唱えている。

そこで、「学び方を身に付け、表現しかかわりながら、確かな学力を付ける子どもの育成」を研究主題として取り組んでいる。国語では特に「読解力を身に付け、文章が読み取れる子ども」を目指し、実践してきた。

2 実践の概要

(1) 「物語文の読みの手がかり」の設定

子どもが見通しをもって読み進め、自分の考えを練り上げていく力を付けるために「読みの手がかり」を活用している。2年生の学習でも活用してきたが、3年生としての「読みの手がかり」を「3年とうげ」の学習で提示した。教室に掲示し、「登場人物だね」「場面わけだね」などと活用した際には丸印をつけ、活用した足跡を残した。「ちいちゃんのかげおくり」の学習では「読みの手がかりを使おう」と投げかけ、できるだけ自主的に読みの手がかりを用いるよう働きかけた。

3年生 物語文の読みの手がかり

単元全体にかかわって

- 登場人物を見つけよう
- いつ・どこの話か考えよう
- あらすじをつかもう
- 場面分けをしよう
- 題名の意味を考えよう

精読にかかわって

- 場面と場面をくらべよう
 - ・にているところ、ちがうところに線を引こう
- 主人公の気持ちを考えよう
 - ・主人公のしたことや思ったことに線を引こう
 - ・主人公になったつもりで動いてみよう
 - ・主人公の表じょうや心の中で言ったことをそうぞうしよう
 - ・さし絵を見てそうぞうしよう

表現にかかわって

- くふうされた表げんを見つけよう
 - ・ダッシュ
 - ・体言止め
 - ・ぎたい語
 - ・くり返し
 - ・たとえ

(2) 見通しをもたせた学習

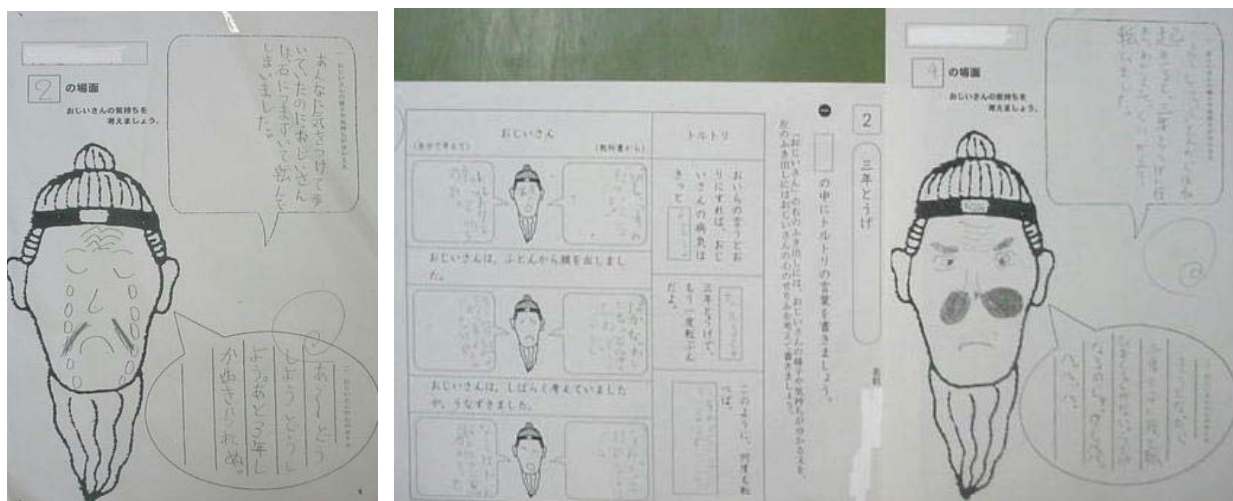
初発の感想を生かして、学習課題のめあてをもたせた。さらに、「3年とうげ」では物語の学習のまとめとして本のおもしろさが伝わるように工夫して「本のおび作り（紹介）」をした。

「ちいちゃんのかげおくり」ではちいちゃんの様子や心情を叙述をもとにして読み取り、ちいちゃん日記を書き、学習のまとめとして「ちいちゃんに手紙を書こう」とした。児童自身が学習の見通しをもち、意欲的に読み取ることができた。

(3) 根拠となる文を元にして考えを書くワークシートの工夫

「3年とうげ」では読み取りをする際、したことや思ったことにサイドラインを引き、ワークシートに書き、そこから考えた登場人物の気持ちを吹き出しに書き、表情も想像して描いた。

「ちいちゃんのかげおくり」では、ちいちゃんのしたこと、セリフなどの気持ちが分かる文（本文の根拠となる部分）にサイドラインを引き、ちいちゃんの吹き出しを「日記形式」にして書いた。



(4) かかわりを生かした学習形態の工夫

同じ考えであったりいろいろな感じ方があったりすることに気づかせたいと願い、「紹介タイム」を設定した。隣同士で、順番に理由とセリフや吹き出しを言うが、その際、常に自分の考えと友だちの考えを比べて聞くようにさせ、似ているところや違うところを確認し合った。付け足しをするときには赤ペンを使用した。



3 おわりに

(1) 成果

ア 「読みの手がかり」を活用して物語文を読み取ることができた。最初に大体の全体像をつかみ、教師の提示に従って読み取りを行えた。キーワードやイメージをもたらす言葉に着目して作品に迫るように、子ども自身のペースで進めていくこともできた。

イ 学習形態を工夫し、多様な考えをもとにした集団でのかかわり合い、表現し合うという活動を通して、児童は「自分の考えをはっきりさせよう」「相手に伝えたい」「相手の考えを聞きたい、知りたい」という思いが強くなってきた。途中で言いよどんだり言葉に詰まったりしながらも、話すことによって考えを明確にしていくということを全員が経験できていた。

(2) 課題

子ども自らが使いこなせる「読みの手がかり」が増えることで、読みを深め、主題を追求することができると思う。「物語文」と「説明文」の「読みの手がかりを」活用し、読む力の向上を更に図っていきたい。